

平成11年度(第7回)専門医資格認定試験の試験問題について

専門医制度委員会

委員長 大久保 利晃

平成11年8月28日・29日に、平成11年度(第7回)専門医資格認定試験が実施されました。今後の制度改善と受験者の便に供するため、委員会は従来どおり、この試験で用いられた試験問題を公表することといたしました。試験方法は、昨年と同じです。以下に筆記試験、口頭試験の全問題文を掲載いたします。

1. 筆記試験

A問題. 10問のすべてについて簡潔に回答せよ。

1. 作業の負荷を評価する方法を4つ列挙せよ。
 2. 有害物質を使用する作業場の作業環境を改善する際に講ずべき対策を4つ列挙せよ。
 3. 中小企業の産業保健の向上に関係している制度について述べよ。
 4. 母性健康管理措置において適法となる措置に○、違法となる措置に×印をつけよ。
 - () 保健指導・健康診査の受診時間を確保する措置の対象は妊娠中または産後1年を経過しない女性とする。
 - () 保健指導・健康診査の受診は年休をとって行くように指導する。
 - () 医師等の指示の有無に関係なく、休業の措置の適用期間は3カ月に限定される。
 - () 母性健康管理指導連絡カードを提出しない女性には措置は適用されない。
 5. 規則的な運動習慣によってリスクを下げることができると疫学的に認められている疾患を列挙せよ。
 6. 健康診断と健康測定の違いについて述べよ。
 7. ある大手製造業(平均40歳)において次の値を得た。全国の企業と比較して「明らかに高い」と考えられる値はいずれか?

1) 一般健康診断でいずれかの項目が有所見であった者が社員10人当たり 1人

2) 一年間の在職死亡者が従業員数 1 万人当たり 1 人

3) 休業 4 日以上の労災が延労働時間10万時間当たり 1 件

a. 1)のみ b. 2)のみ c. 3)のみ d. 1)から 3)のすべて

e. いずれでもない

8. 次の運動機能検査のうち、加齢による影響を最もうけにくいものはどれか。

1) 握力 2) 最大酸素摂取量 3) 立位体前屈 4) 閉眼片足立

9. 職場における精神的ストレスについて簡潔に記せ。

10. 労働安全衛生法施行令で製造等が禁止されている物質を 4 つ列挙せよ。

B 問題. 5 問中 3 問を選び回答せよ。

1. 作業環境を評価するために、作業環境測定結果から算出される第 1 評価値と第 2 評価値の持つ意味について、A 測と B 測定にわけて述べよ。

2. 抑うつ、不安を伴う適応障害（職場不適応）の早期のサインについて、本人が気づく変化、周囲が気づく変化について列挙せよ。

3. 高脂血症で保健指導を実施した成果について、費用便益分析を実施したい。ここで、定期的な便益は疑似定量化することで金額化することにした。直接費用、間接費用、直接便益、間接便益としてはどのような項目を挙げたらよいか。簡潔に示せ。

4. 熱中症の症状と予防対策について説明せよ。

5. 事業場における危険予知活動、ヒヤリ・ハット運動を説明し、それを労働安全衛生マネジメントシステムに則った活動に発展させる方策について説明せよ。

C 問題. 5 問中 2 問を選び詳述せよ。

1. 労働災害としての腰痛に関し、その発生状況と予防について産業医の立場から論ぜよ。

2. 労働衛生対策における作業管理・作業環境管理・健康管理をそれぞれ評価する方法について述べよ。
3. 職業がんの労働災害認定における業務起因生の判断に関する基本的な考え方について述べよ。
4. ある有機溶剤取り扱い職場で、保管庫から新しいトルエン缶を取り出し、職場で使用するガラス瓶に移し替えて使用している。しかし、溶剤が余ることが多いので、瓶は蓋をして職場に備え、また缶も空になるまで蓋をして職場の鍵付きの工具入れに保管している。産業医としてこの職場の巡視所見を記せ。
5. ある事業所で非常勤の産業医をしているが、その事業所の看護職から次のような相談があった。過日、大腸がんを内視鏡下で切除した後の復職健康診断の結果で、産業医が「大腸ポリープ切除後元籍復帰可」と判定した社員について、職制上は看護職の上司に当たる総務部長が「復職健康診断の記録はすべて見せるように」と指示した。このような事例についての社内ルールはないが、総務部長の申し出をそのままは受けたくないという。次の3つの単語を必ず使用して、産業医の見解を示せ。
「刑法に基づく守秘義務」、「事業者が健康記録を保存する義務」、「倫理指針」

2. 口頭試験

口頭試験では、個々の知識と関連領域の知識との整合性や、知識の総合性、経験の程度、問題解決能力、総合的評価能力、企画力、対象の観察力、指導性、協調性等を見ることを目的とした。口頭試験【A-1試験】・【A-2試験】では、5名を1組とするグループと6名を1組とするグループ、【B試験】では、4名を1組とするグループ2組と3名を1組とする小グループ単位で3種類の試験が実施された。

【A-1問題】

1. 我国の労働災害事故の現状と21世紀に労働災害をなくす為の施策を述べなさい。
2. 個人曝露濃度測定と作業環境測定法による環境測定の違いと、各々の意義について述べなさい。
3. 裁量労働制について産業医として知るべき必要のあることを述べなさい。

4. じん肺検診で胸部写真を読影する場合に留意すべき点、管理区分の決定並びに異常があった場合の健診の流れを述べなさい。
5. 作業所内で急患が発生に備えての対策を列挙しなさい。
6. 作業環境を快適な水準に維持管理するための措置について述べなさい。
7. 作業主任者を選任すべき作業場を挙げなさい。
8. 職業性アレルギー疾患について知るところを述べなさい。
9. 発がん性が疑われている化学物質を工程に導入するにあたって、留意すべき点について述べなさい。
10. わが国のじん肺の発生状況と、その特徴につき説明しなさい。
11. 業務上負傷や疾病の解雇制限や打切補償について知るところを述べなさい。
12. 男女雇用機会均等法等の改正の概要について述べなさい。
13. 職場における「腰痛症」の対策について述べなさい。
14. 企業外労働衛生機関の役割について述べなさい。

【A-2問題】

1. 健康づくりにおいて、健康教育は極めて重要な手段である。その基本は、自主的な健康づくりに向けた生活習慣の確立である。そのために企業側が取り得る支援システムとはどのようなものか、健康保持増進対策の評価をどのようにすべきかについて整理しなさい。
2. 最近、特殊健康診断を必要とする有害業務が下請け企業に委託されるケースが増加している。下請け企業まで含めた産業保健活動を展開する方策についてまとめなさい。

【B問題】

1. これまでの日本企業では、ともすると個人の情報(医療・健康情報も含めて)がほとんどオープンで、個人もそのことを不思議に思っていないようである。何もかも知ってもらいことによって、職場は家族的となり何かあっても会社が守ってくれるものと思っているのが、現在でも一般的である。しかし、昨今の社会状況を見ると、個人のプライバシーの保護が大きな関心を呼んでいることは、周知のことである。専属産業医と

して、当社の従業員の医療・健康情報に対するプライバシーの保護に問題が見られるので、「事業主の安全配慮義務との狭間でどのように考え、労働者のプライバシー保護のためにどう活動したらよいか」について、衛生管理者及び産業看護職に教育する機会をもつことにした。その内容についてまとめなさい。

2. 現在自社で行われている産業保健サービスが実際に必要かどうかについて、経営側から説明を求められた。あなたが専属産業医（または嘱託産業医）をしている事業場を実例にして、経営側に現状の評価および将来の方向性に対する産業医としての意見をプレゼンテーションしなさい。
3. あなたは従業員 500 人の車両修理工場の安全衛生委員会に出席している。この工場では、最近労災事故が増加しているため、その対策について産業医としての意見を述べてほしいとの要請があった。あなたの産業医としての意見を述べなさい。
4. 経営者を交えた担当者会議で、母性健康管理指導事項連絡カードの取扱いに関し、留意すべき点について産業医としての意見が求められた。具体的に、その課題と取るべき対応について整理して提示してください。